

成人向
FOR ADULT ONLY

格闘少年丸出しマッチZ

UNDERGROUND CHINCHIN DASMATCH

MARUDASHI MATCH

FIGHTING BOYS

MITA SOTA

KUSAMA YAHIKO

TAKENOKOGOHAN-VF

三田颯太 + 草間弥彦 vs 相良健史郎 + 水瀬輝 スペシャルファイター・長谷部武虎

シリーズ 格闘少年丸はだか&丸だし！ 期待の新鮮筋肉男子

三田 颯太

草間 弥彦



ライバルは親友で天敵

今季の総合少年格闘技界で大ブレイク中の二人、『狂暴サンタ』と『鬼畜な鬼ヒコ』を丸裸に！

そう意気込む記者の前に現れたのは、笑顔が眩しい学ラン姿の美少年達だった。

まだ中一ながらアイドル顔負けのイケメンで超攻撃的な戦闘スタイルが魅力の『狂暴サンタ』の三田颯太（みた そうた（十三）・箭学園）と、カワイイとしか言いようのない美しい笑顔のままで繰り出す苛烈な攻撃がクセになる『鬼畜な鬼ヒコ』草間弥彦（くさま やひこ（十三）・箭学園）の二人に、所属する箭学園空手道場で話を聞かせてもらった。

記者（以下Ⅱ）お二人は小学生から同じ門下で友人同士とか？
三田選手（以下サンタ）そうっすね、まあ人生の半分は一緒だね。
草間選手（以下鬼ヒコ）人生って言ってもまだ十三年目だけど。
Ⅱ格闘選手としてはライバルですが、やり辛いかは？

三田颯太(13)

筍学園中等部一年生

筍学園空手道場所属

極端に攻撃偏重のスタイルから

ファンからの愛称は『狂暴サンタ』



サンタ 無いね！まあ、天敵という意味では超嫌な奴だけど。

Ⅱ 天敵？

鬼ヒコ お互い手の内を知り尽していて、しかもスタイルが真逆ですごくやり辛いです。

サンタ そうそう、俺達って、めちゃくちゃ相性悪いの！ヒコはカウンター野郎なんだけど、俺はそれを強引にぶち抜くスタイルだからさ。

鬼ヒコ 戦うからには、この頭の悪い特攻野郎を完膚なきまでに叩き潰したいんだけど、いつも無様な泥仕合になっちゃう。

Ⅱ 輝く笑顔で怖い発言。まさに『鬼畜な鬼ヒコ』ですね！

鬼ヒコ それ、いつの間にか定着してるけど、最初に言い出したヤツはチンチン潰すから！

草間弥彦(13)

筍学園中等部一年生

筍学園空手道場所属

軽快なフットワークを生かしたカウンター主体のスタイル かわいい笑顔で苛烈な攻撃を叩き込み、ファンからの愛称は『鬼畜な鬼ヒコ』

Ⅱ (極上の笑顔で、右手で何かを握り潰す仕草する鬼ヒコさん)
サンタ むしろ性悪とか極悪とか卑劣とかだよな？
鬼ヒコ 右と左、どっちの玉から潰されたいか決めておけよ？
サンタ 俺の右足なら二個同時に潰してやれるぜ？

Ⅱ この後、撮影用のスパarringが白熱して大変なことに!!
インタビュ 後半は袋綴じで！





草間弥彦(13)

筍学園中等部一年生
筍学園空手道場所属
軽快なフットワークを生かしたカウン
ター主体のスタイル かわいい笑顔で
奇烈な攻撃を叩き込み、ファンからの
愛称は『鬼畜な鬼ヒコ』

Ⅱ(極上の笑顔で、右手で何かを
握り潰す仕草する鬼ヒコさん)
サント むしろ性悪とか極悪と
か卑劣とかだよな？
鬼ヒコ 右と左、どっちの玉から
潰されたいか決めておけよ？
サント 俺の右足なら二個同時
に潰してやれるぜ？

Ⅱこの後、撮影用のスパーリング
が白熱して大変なことに！！
インタビュアー後半は袋綴じで！

三田颯太(13)

筍学園中等部一年生
筍学園空手道場所属
極端に攻撃偏重のスタイルから
ファンからの愛称は『狂暴サント』

鬼ヒコ 戦うからには、この頭の
悪い特攻野郎を完膚なきまでに
叩き潰したいんだけど、いつも無
様な泥仕合になっちゃう。
Ⅱ輝く笑顔で怖い発言。まさに
『鬼畜な鬼ヒコ』ですね！
鬼ヒコ それ、いつの間にか定着
してるけど、最初に言い出したヤ
ツはチンチン潰すから！

サント 無いね！まあ、天敵とい
う意味では超嫌な奴だけど。
Ⅱ天敵？
鬼ヒコ お互い手の内を知り尽
していて、しかもスタイルが真逆
ですごくやり辛いんです。
サント そうそう、俺達って、め
ちゃくちゃ相性悪いの！ヒコは
カウンター野郎なんだけど、俺は
それを強引にぶち抜くスタイル
だからさ。



「この間のヤツ、やっと雑誌届いたんだな」

寮の大浴場から戻った弥彦に、サンタはベッドの上から声をかける。弥彦と同じく部屋着にしているダサイ学校指定のスウェット姿でサンタが手に持っているのは『格闘少年』という月刊の専門誌だ。

「ああ、うん。オレはもう読んだよ」

そう苦笑気味に答えると、弥彦はベッドに寝転んでサンタに体を寄せて雑誌を覗き込む。

『絶対王者の長谷部武虎（はせべたけとら（十五）・武野鼓ジム）が君臨する総合少年格闘技界に大きな動乱の予感だ！』ってさ」

呆れ気味に記事の最後の部分を読み上げると、弥彦は鼻で笑う。

「相変わらず酷い記事だよ。袋綴じの後半なんか下ネタ質問ばかりで格闘技は全然関係ないし！最後だけそれっぽくして誤魔化すのは定番のギャグになりつつあるよね」

弥彦の辛辣な意見に、サンタはどうでもよさげに頷く。

「まあ、この『格闘少年』って雑誌はほぼエロ本扱いだから。そういえば、結局、学ランでチンポも出したし、スパーリングも全裸でやらされたよな？アレは載ってないのか？」

そう言ってサンタはペラペラとページを捲るが見つからない。

「アレは有料の配信限定だったさ」

「そっちは見れないのか？」

「お金払って会員にならないとね」

「ひで〜」

実際には気にしていない様子のサンタは、そのまま雑誌を読み進めていき、弥彦は左手でサンタのペニスをスウェットから出した。

そして、半剥けの亀頭を剥き上げ、剥き出しになったピンクの亀頭を優しく摘まんで感触を楽しむように揉む。

さらに右手ではスウェット越しにサンタのアナルに指を押し当てる。

「おまえ、ホント俺のチンチン好きだよな」

サンタはそう言うだけで一切止める素振りを見せず、自分のペニスとアナルを弥彦の好きにさせたまま雑誌を読み続ける。

弥彦も何も言わずに幸せそうな顔でサンタのペニスを弄り続け、さらにサンタに体を密着させて体温と匂いを感じてご満悦だ。

「やっぱり無理を言って一緒に部屋にしてもらってよかったね」

幸せを噛みしめるように言う弥彦に、サンタは苦笑気味に笑う。

「本当は一人部屋だから、この部屋」

どうしても『同棲』したくて、入寮する際はかなり頑張ったのだ。

小学校一年生から同じ道場でライバルで親友で、そして四年生からお互いのチンポを弄り合い、五年生の春に同時に精通し、そのままセックスをして、お互いに『親友以上恋人未満』である、と自分たちの関係を定義して、やっぱり自由にセックスしたいと中等部進級のタイミングで学生寮での共同生活を始めたのだ。

「ヒコ、おまえさ、俺がおまえ以外のオトコとセックスしたら嫌か？」

サンタの爆弾発言に、しかし弥彦はまったく動揺することなく笑う。

サンタの考えていることは、ほぼお見通しだ。

「バイトで何か話があったの？」

「うん」

「正直わかんない。男同士だから貞操がどうかは興味ないけど。サンタはどうなの？オレが他のオトコとセックスしても平気？」

「うん。確かにわかんないな」

「でしょ？」

弥彦はそういうと、サンタの胸に顔を埋めて深呼吸をする。

「…せっかく毎日同じベッドで寝られるようになったんだから、暫くはこのままでいいじゃん」

「うん」

サンタは小さく頷いて、弥彦の体を抱き寄せてさらに密着させる。

「いいな」



「あつ、コレさつき見落とした！サンタがこの前に撮影したっていう雑誌広告のアルバイトってコレ？」

「うん」

サンタがページを捲って出てきた雑誌の広告に弥彦は目を剥く。

全裸で勃起ペニスにタオルをかけただけのサンタが、ラブホテルのベッドの上で枕を抱えてカラオケしているというシュールな広告だ。

「一応は、箭学園の系列のラブホテルなんだぜ？」

慌てて言い訳するサンタに、弥彦は何かに気づいた顔をして唸る。

「さっきの、オレ以外のオトコとのセックスの話もコレから？」

「…うん」

「詳しく聞かせて」

「大したことじゃないぜ？このバイトは生徒会のアルバイト幹旋フォームに登録したら紹介されたんだけど、現場にいた生徒会の担当から俺なら『OKランク』を上げればもつと稼げるよって言われたんだ」

雑誌のページを捲る手を止めたサンタは、少しだけ熱心に語る。

「OKランクってのは、生徒会の幹旋フォームに登録する際にどこまでOKかっていう基準で、『着衣のみ』『セミヌードOK』『全裸OK（チンポ出し不可）』『全裸OK（チンポ出し可）』『射精可』『アナルセックス可』『SM可（ランクA〜D）』の七段階あって、SMはさらに細かく分かれるんだけど、上にいくほど高額報酬なんだ」

「なるほどね。で、今回はどこまでOKにしたの？この写真だと全裸OKのチンポNGかな？でも、サンタのことだから結局出しただろ？」

弥彦のするどい突っ込みに、サンタは苦笑する。

「うん、撮影現場では結局チンチンをぶらぶらさせてたから、まあいいやって現場で変えちゃった。こっちも丸出し版の広告は有料配信にだけ出すんだってさ」

「とにかく有料なのね。世知辛いねえ」

弥彦は軽くため息ついて肩を落として見せる。

「だな。でも俺らもその分割り増しで貰ってるから、もう言えないな」雑誌の取材時にも、全裸丸出しでの撮影には『協力金』を提示されて二つ返事で脱いでいるのだ。

「あれ？でも雑誌のほうはモザイクはかけますって言ってたよ？」

弥彦はそう言ってから何かに気付く

「あつ！モザイクはかけるけど、すぐ外せる？」

「正解。知らなかったのか？モザイクにしてはいい金額だったじゃん」

サンタは素で驚いた顔をする。

「それはそうだけど！」

ぷつと頬を膨らませた弥彦にサンタはすかさず謝る。

「わりい、マジで知らないとは思わなかった。でも、お前のデカくて太い半剥けチンチンを皆に見せびらかしたかったんだ」

サンタの言葉に悪い気はしない様子の弥彦は、先程からずっと弄り続けていて完全に勃起しているサンタのペニスから手を放して、スウェットの中の金玉をやさしく握った。

「まあオレも、サンタの長くて形のいいチンチンとデカイ金玉を見せびらかしたみたいで気持ちよかったけど」

「コレはオレのだぞ！って？」

サンタはニヤリと笑う。

「そう！忘れたとは言わせないからね！サンタの体はオレのモノだよ」
「忘れてないさ。確かに俺の体は弥彦のモノだ。二十四時間三百六十五日いつでも俺の体を好きに使っていいよ」

誇らしげに言うサンタに弥彦は嬉しそうに抱き着くが、一転して不満げな顔で囁く。

「…でもアルバイトしまくって二人の時間が減るのは考え物だよ」

「うん、でも早く金を貯めてちゃんとしたアパートに引っ越したいし」
サンタの何気ない返事に弥彦は仰天する。

「ええっ？ナニそれ？聞いてないよ？せっかく学校の寮に一緒に入れ

全室
カラオケ
ジャグジー付



ホテル 竹藪館

つれこみのお宿

御宿泊・御休憩

モデル 三田颯太

GOTOANAL
キャンペーン
対象施設

大好評！

も～ニング
サービス付！



竹鋸県竹藪市竹鋸町69-69 TEL (代) *69-80169

一拍おひとりさま28000円より

たのに、もう引越しの話？」

「ああ、だってこの部屋一人部屋だからさ。今はいいけど、この先、高校生や大学生になったら狭くて無理だろ」

サンの言葉に弥彦は目を丸くする。

「高校生や大学生……」

そして今度はサンが弥彦の言葉にショックを受ける。

「……違うのか？俺はずっとお前と一緒にいるつもりだったんだけど」

「違わない！違わないよ！」

弥彦はサンを抱きしめる。

「サンタ、セックスしよう。今日はオレがサンに挿れたい」

「うん」

サンは短く答えて雑誌を放り投げた。

弥彦はサンのスウェットのパンツを器用に下ろして、完全勃起した少し剥けた長くて形の良い勃起ペニスとデカイ金玉を丸出しにする。ペニスの根本には年齢相応の僅かな薄い陰毛がある。

同居を始めた時の約束で、入浴後は二人とも部屋着の下には下着は一切着けず、アナルも準備しておくことになっているのだ。

弥彦も自分で下半身だけスウェットを下ろすと、完全勃起した半剥きのデカくて太いペニスがパチンと跳ねた。

陰毛はまだないが、よく見るとうっすらと産毛がある。

二人とも時間を惜しんで片足だけパンツから抜いて、勃起ペニスを押し付け合うように抱き合った。

「サンタ、今日は後ろからやりたい。サンタのエッチなカラダを見ながらじっくり時間をかけてセックスしたい」

わざわざ狭い部屋に持ち込んだ大型の鏡に、背後から愛撫され犯されるサンの痴態を映しながらのセックスで、弥彦のお気に入りだ。

「うん」

サンは頬を染めながら小さく頷く。

サンも自分の痴態を見せつけられるので実はかなり恥ずかしい。

「サンタ、最高にエロいよ」

背後から抱き着いた弥彦が耳元で囁くと、サンの頬が赤く染まる。ベッドの上で大鏡に向けて膝立ちになった下半身丸出しのサンを、同じく下半身丸出しの弥彦が抱きしめて、自分の勃起ペニスをサンの剥き出しの尻の谷間に押し付けているのだ。

さらに背後からサンのスウェットの上をめくりあげて、形の良いシックスパックと大胸筋、そして桃色が綺麗な形の良い乳首を晒し、左手の指でサンの左乳首を摘み廻り、右手で魅惑的な肢体を卑猥な手つきでゆっくりと撫でまわしていく。

「っんん！」

サンは堪らず甘い声を漏らし、生唾を飲みこむ。

「はっ、ううっ！」

そして満を持して弥彦が勃起ペニスを右手で握りしめて亀頭を剥きあげると、艶めかしい呻き声と共に鈴口から透明な粘液が溢れだした。

「サンタ、よく我慢したね」

「ヒコお、もう欲しい。イキナリでいいからお前の太いのぶち込んで」
普段のサンからは想像できない艶やかな声で懇願する。

「うん！」

弥彦は望み通りにイキナリ、そして一気に根本まで自分のペニスをサンのアナルに突き入れた。

「はっああああん！」

サンはあられもなく嬌声を上げ、ペニスからは精液を噴射する。

「サンタあ、オレも出るウ」

「……ああ、熱いのいっぱい入ってくるっ！もっと、もっと欲しい！」

「うん！金玉空っぽになるまで全部ですから！」



「じゃあ先いくね」

「おう！」

総合少年格闘技グランプリシリーズの全体公開練習を終えて、弥彦はサントに声をかけてからシャワールームに向かう。

サントは仲のいい先輩選手と何やら話し込んでいたので、しばらく時間がかかりそうだ。

「さあ、戻って宿題しないと」

シャワーを終えた弥彦がシャワーブースを出ようとすると、目の前に良く知っているイケメンが立っていた。

「えっ！鬼虎っ、あ、いや、長谷部さん！」

「ああ、鬼虎でいいぜ！ちよっと話いいかい？」

総合少年格闘技界最強で、絶対王者として君臨している長谷部武虎（はせべたけとら（十五）・武野鼓ジム）が、全裸にタオルを肩にかけただけの姿で弥彦の前に立っていたのだ。

同じようにシャワーを浴びたばかりらしい絶対王者の濡れた肉体は、鍛え抜かれた筋肉が照明に照らしだされて彫刻のように美しく、股間ではまさに巨根という言葉がふさわしいズル剥けペニスが完全勃起して天を仰ぎ、その根本からはやはりズッシリとデカい金玉がぶら下がって揺れていた。

「あ、あ、はい大丈夫です」

武虎の肉体に思わず見入っていた弥彦が動揺を隠せずにそう返事をする、武虎はシャワーブースに入ってきて、壁に手ついて一気に弥彦との距離を詰めた。

いわゆる壁ドンというヤツだ。

「えっ？あの？…あっ！」

自信に満ち溢れたイケメンに見つめられた弥彦は、武虎の視線がふと下に落ちたのを見て慌てた。

「なかなか立派なモノを持つてるじゃないか」

武虎の視線の先には完全勃起した弥彦のペニスがあった。

そう言うって微笑む武虎が本気で言っていて、決して悪意は無いのは声音からも良く判るが、やはりその前にある武虎自身の巨根と比べると厳しいものがある。

「おまえも裏格闘技の選手にならないか？」

突然の、まるで某刃の上弦の参みたいなセリフに弥彦は驚く。

「え？…オレなんかが裏に？」

「知ってはいるな？じゃあオレが誰かも？」

事情は知っているらしい弥彦の反応に武虎はニヤリと笑う。

「えっと、レイプタイガーさんですよ」

意を決して答えた弥彦に武虎は満足げに頷く。

「そうだ。おまえは、そして相棒のサントも、裏格闘技にふさわしい最高の人材だ。まず十分以上に強い格闘家で、そのうえでカワイイ顔とエロイ肉体、デカイチンポ。観客はそういう筋肉美少年がリングで全裸になって射精してブチ犯されるのが見たいんだ」

「やっぱりサントも？」

弥彦は非道い内容よりサントの名前が出たほうが重要だった。

「ああ、本当は二人一緒に話をしたかった」

「でも、それってオレ達には良い事ないですよ」

「ある。人気選手になれば現役中に一生分稼げるぜ。まあ、そのかわりに想像を絶する痴態を晒し、ネット中継も含めて何百万人に見られながらセックスしまくる事になる」

武虎の言葉に、弥彦のペニスがポンッと大きく跳ねる。

そして、それを見た武虎は自信たつぷりに言い切った

「おまえとサントは、ソレが平気な、むしろ大好きな淫乱のハズだ。百人以上の格闘少年を犯してきたオレには判る。考えてみてくれ」

武虎は言うだけ言うとその場を離れようとしたが、今度は目の前に



サンタが目を丸くして立っていた。

サンタはシャワーを浴びる前だったらしく全裸だが濡れていない。

何かを言いたげだったサンタも、武虎の股間に気付いて思わず生唾を飲んでからは、その場で固まってしまふ。

それを見た武虎はニヤツと笑いながらサンタの肩を抱いた。

そして、全裸の肉体を密着させると、ポンと跳ねあがったサンタのペニスと金玉を掴む。

「あつ」

「残念だが時間切れだ。詳しい話は鬼ヒコから聞いてくれ。オレのペニスをお前の腹にぶち込んで、この良い金玉を騷れる日が来ることを楽しみにしてるぜ！じゃあまたな！」

「そういうことだったのか」

寮の自室に戻って弥彦から話を聞いたサンタは、寮に生徒会から届いていた書類を見ながら唸った。

書類は『総合性少年格闘技グランプリシリーズ』いわゆる裏格闘技への参戦依頼と各種要綱に契約書だった。

生徒会の担当者に電話してみると、実は裏格闘技も笛学園グループの傘下だそうで、レイプタイガーから依頼があつて送付したとのことだった。ちなみにレイプタイガーからの直接のスカウトは今まで聞いたことがないらしい。

「ある意味すごいね。オレたち」

苦笑気味に笑う弥彦にサンタも肩を竦めた。

「まあな。でも、どうする？」

送られて来た資料を見ると裏格闘技は想像以上に過酷で、想像を絶するくらい高収入だった。

非合法ながら、実際は看板を出していない以外は普通の総合少年格闘技と同じ会場で堂々と開催されているが、実態は格闘技興行を舞台装

置にして十代の筋肉少年の肉体やセックス、性的拷問を見世物にしている過激な性産業だ。

参加選手はほぼ全裸で試合を行い、敗者はリング上で勝者に公開レイプされるのが基本だが、実際は様々な余興や規則ですべての選手が全裸を晒され、アナルを犯され、性的拷問を受けて、そのすべてを観客と配信で見世物にされるらしい。

「実は、今日シャワーの前に飛鳥先輩にも紹介されたんだよね」

サンタが話し込んでいた先輩選手も、実は参戦していて相当酷い目にあつたが、経済的な大ピンチを救われたという事だった。

「肉体的精神的に地獄を見るから薦めはしないけど、金がいるなら確実だつて。あとお前なら大丈夫だと思つてさ」

サンタの話を聞いて、弥彦が何かを思い出して口を尖らせる。

「そういえば、レイプタイガーは、お前たちはソレが大好きな淫乱だつて失礼なこと言つてたけど、自覚ある？」

「ないない！でもレイプタイガー、武虎さんの巨根は正直ちよつと興味あつた。ケツの穴が疼いた」

照れながら正直に告白するサンタに弥彦も頷く。

「あ、オレも。なんか凄いやつて、このオトコになら抱かれたいつてドキドキしちゃった」

サンタと弥彦はお互いに見つめ合つて、笑った。

「俺は一回やつてみる」

吹っ切れたようにサンタは言い切った。

「ヒコ以外のオトコとセックスしてどう思うかも確かめられるし、引越し資金も積める。チンチン見られたり拷問されたりは、まあ、なんとかなるだろ」

「オレもやる。引越し資金は二人で用意しなきゃ。それに他のオトコとのセックスもやっぱり試したいし。一回だけなら有りだよ」

『ご来場の皆様にご案内します。このあと午後七時から第二体育館において、総合性少年格闘技グランプリシリーズ第1回工業カップ春開催の参加選手によるパドック観戦を開始します』

アナウンスは当の第二体育館にも流れたが、まだ観客は一人も入場しておらず、選手とスタッフだけが静かに観客を待っている。

小ぶりの体育館の中央に巨大なベルトコンベアーが円を描いていて、畳半畳より少し大きいプレートが斜めに立て並べられ、そのプレートに全裸にレザーの首輪のみという選手たちが両手を頭上で拘束された状態でM字開脚で固定されている。

そして全員のアナルにローターが挿入されて強制勃起させられて、完全勃起したペニスがフラフラ揺れながら透明な粘液を垂らしている。

「昆虫標本みたいだ。覚悟はしてたけど、これはやっぱりナシかも」泣きそうな顔で呟く弥彦にサンタは相槌を打つ。

「うん、俺が甘かった。こりやヤバイ」

思わず泣き言を言うサンタ達に隣のレイプタイガーが注意する。

「お前ら、お客が入ったら私語厳禁だぜ」

「おっす。っていうか、なんで絶対王者までいるんですか？」

「絶対王者だからさ。俺はお客の一番のお気に入りのおモチヤなんだぜ？大好きなおモチヤがおもちや箱に入ってたなら、お客はがっかりするだろう？」

「オモチヤ！なるほど…」

「そうだ。ここまで来たら腹を括ってエロいオモチヤになれ」

「おっす！」

そこでスタッフから観客の導入開始の合図が入り、ベルトコンベアーが動き出し、同時にスポットライトが選手全員に降り注がれた。

一分も経たずに賑やかな観客の塊が体育館に入ってきて、あつという間にパドックと言う名のベルトコンベアーの周りを埋め尽くす。

思った以上に観客との距離が近くて、ほぼ目の前だ。

ベルトコンベアーが動き出すと思いのほか振動が大きく、選手たちの完全勃起したペニスと金玉が大きくぶるんぶるんと揺れまくり、観客たちは大いに笑って楽しんでるようだ。

もちろん、写真も動画も撮り放題で有料配信もされている。

そうして全裸筋肉少年たちの個別の紹介アナウンス付のパレードが十五分ほど続いてから、おもむろに追加のアナウンスが入った。

『皆様、パドックはお楽しみいただいていますでしょうか？ここで、前回の試合でレイプタイガーがお約束した罰ゲームを執行させていただきます。これは、この日の試合中に公開レイプした少年に射精させられなかった数だけ、お客様からの応募上位の拷問をパドックで受けるというもので、この日は三人の少年が必死に我慢してレイプタイガーに一矢を報いました』

観客から拍手と歓声と笑いが沸き起こる。

『応募上位三つの拷問は、凶悪イボイボデイルドによる電動ピストンアナル責め、亀頭のスタンガン責め、ニッパ乳首潰し、です』

妙な冷静さがかえって卑猥なアナウンスが終わるのと同時に、全裸に三角頭巾をかぶった少年がレイプタイガーの周りに出現し、まずは凶悪なイボイボのついた極太デイルドをレイプタイガーのアナルに突き入れて、ピストンマシンにセットする。

「うおっ！」

強烈なピストンにアナルを刺されてレイプタイガーは悶絶するが、三角頭巾達はさらに続けて剥き出しの亀頭にスタンガンを当てて電撃を加え、右の乳首をニッパで潰す！

「んがああああっ！」

レイプタイガーの絶叫が体育館に響き渡り、そのまま一周するまで五分以上レイプタイガーは罵られ続けた。

そして、それをすぐ近くで見せつけられたサンタと弥彦は、恐怖よりも性的興奮を覚えてしまった自分に密かに動揺していた。



長谷部武虎





水瀬
リングに上がったレフェリーがマイクを握り直し宣言する。
『それでは、今日のスペシャルイベント、全員射撃するまで終わらない丸出しタッグマッチ！を開始します！』

『青コーナー！超の付く大型新人が二人まとめて参戦だ！学園園所属「狂暴サンタ」三田颯太！「鬼畜な鬼ヒコ」草間弥彦！共に中学校一年生！皆さんご存じ、表の総合少年格闘技で大ブレイ

ク中の実力派筋肉美少年だ！』
コールを受けて、サンタと弥彦はロープを派手に飛び越えてリングに上がる。
満員の観客から割れんばかりの拍手と歓声が沸き起こり、ス

ポットライトが二人を射抜く。
サンタは青、弥彦は赤のファイトショーツという名の極薄レザーの紐パンだけの姿で、尻は丸出し、小さいレザー越しにチンポの形はくっきり丸見えだ。



『赤コーナー！武野鼓ジム所属、水瀬輝、中学校一年生！そして相良健史郎、小学校六年生！あの絶対王者レイプタイガー長谷部武虎のかわいい弟分達だ！』

『意気揚々とロープを飛び越えてリングに上がった少年達は、サンタ達と同タイプながら虎っぽい柄のファイトショーツ姿で、全身にもレイプタイガーと同系のペイントが施してある。』

『総合「性」少年格闘技界のセックスアイドル、ミニタイガーテルとケン、そして表のアイドル選手なサンタと鬼ヒコ、四人の筋肉少年の鍛え抜かれた美しい肉体がリングの上で精液塗れに』

『なるぜ！相手のアナルをブチ犯すのはどちらのコンビなのか！さあ見せてくれ！っファイ！』
煽って溜めたレフェリーがついに手刀を振り下ろし、卑猥な試合のゴングが鳴り響いた！』



『さあ、最初の対戦は「鬼ヒコ」
草間弥彦と「レイプタイガーケン」
相良健史郎の二人だ!』
レフェリーのアナウンスに押
されるように弥彦と健史郎はリ
ングの中央に進み出る。

「おにヒコお!ぶちかませえ!」
わざわざ鬼ヒコ呼びしたサン
タの声援に、弥彦は口を尖らせな
がらも呼吸を整え構えを作る。
しかし、感覚的にはほぼ丸出し
の股間にどうしても違和感が



あり、羞恥に頬を染め、いかにも腰が引けて集中を乱している。

対して、既にこの地下格闘技大会で場数を踏んでいる健史郎は、余裕の表情でしっかり足を開いてチンポを突き出し、隙のない堂々とした構えだ。

時間にしてわずか数秒の睨み合いのあと、先に仕掛けたのは健史郎だ。

観客の前でチンポを晒すことに羞恥が残っている弥彦を見透かし、低い姿勢から一気に間合いを詰めて弥彦の下半身に取り付き、弥彦のファイトショーツを乱暴に牽り取った！

「っうあ！」

完全に不意を突かれた弥彦は反応が致命的に遅れ、されるがままに観客の前に萎えた状態でもほぼ剥けているチンポを晒す。

沸き上がる観客の歓声に動揺する弥彦を健史郎はすかさず引き倒して固め技に持ち込んだ。

カウンタースタイルを身の上とする弥彦としてはありえない醜態に弥彦自身がパニック状態に陥ってしまい、有効な返しがで

きないまま健史郎に完璧に固め技をキメられてしまう。

その様子はリングを取り囲むように大量に配置されている高精細カメラで撮影されて、会場の大スクリーンに映し出された。

スクリーンをチラ見した健史郎はカメラ位置を確認し、弥彦の丸出しになっているチンポをカメラに向けるように体勢を調整していく。

さらに固め技を決めたままで器用に弥彦の肉体を揺らし、弥彦の丸出しの萎えた剥けチンをぶらぶらと揺らして見せた。

健史郎の粋な計らいに観客がドツと沸き上がると、健史郎はさらに弥彦の肉体に抱き着いたまま卑猥に腰を動かし始めて観客を喜ばせる。

「こういうことか……」

その様子を見たサンタは唸る。観客が見たいのは勝負ではなく筋肉少年の痴態なのだという事をあらためて痛感したのだ。

武虎や健史郎が大人気なのは、自分自身の肉体も含めて、その欲求に応えているからだ。



あり、羞恥に頬を染め、いかにも腰が引けて集中を乱している。

対して、既にこの地下格闘技大会で場数を踏んでいる健史郎は、余裕の表情でしつかり足を開いてチンポを突き出し、隙のない堂々とした構えだ。

時間にしてわずか数秒の睨み合いのあと、先に仕掛けたのは健史郎だ。

観客の前でチンポを晒すことに羞恥が残っている弥彦を見透かし、低い姿勢から一気に間合いを詰めて弥彦の下半身に取り付き、弥彦のファイトショーツを乱暴に奪り取った！

「っうあ！」

完全に不意を突かれた弥彦は反応が致命的に遅れ、されるがままに観客の前に萎えた状態でもほぼ剥けているチンポを晒す。

沸き上がる観客の歓声に動揺する弥彦を健史郎はすかさず引き倒して固め技に持ち込んだ。

カウンタースタイルを身の上とする弥彦としてはありえない醜態に弥彦自身がバニック状態に陥ってしまい、有効な返しがで

きないまま健史郎に完璧に固め技をキメられてしまう。

その様子はリングを取り囲むように大量に配置されている高精細カメラで撮影されて、会場の大スクリーンに映し出された。スクリーンをチラ見した健史郎はカメラ位置を確認し、弥彦の丸出しになっているチンポをカメラに向けてように体勢を調整していく。

さらに固め技を決めたままでも器用に弥彦の肉体を揺らし、弥彦の丸出しの萎えた剥けチンをぶらぶらと揺らして見せた。

健史郎の粋な計らいに観客がドツと沸き上がると、健史郎はさらに弥彦の肉体に抱き着いたまま卑猥に腰を動かし始めて観客を喜ばせる。

「こういうことか！」

その様子を見たサンタは唖る。観客が見たいのは勝負ではなく筋肉少年の痴態なのだという事をあらためて痛感したのだ。

武虎や健史郎が大人気なのは、自分自身の肉体も含めて、その欲求に応えているからだ。

『さあ、最初の対戦は「鬼ヒコ」草間弥彦と「レイプタイガーケン」相良健史郎の二人だ！』

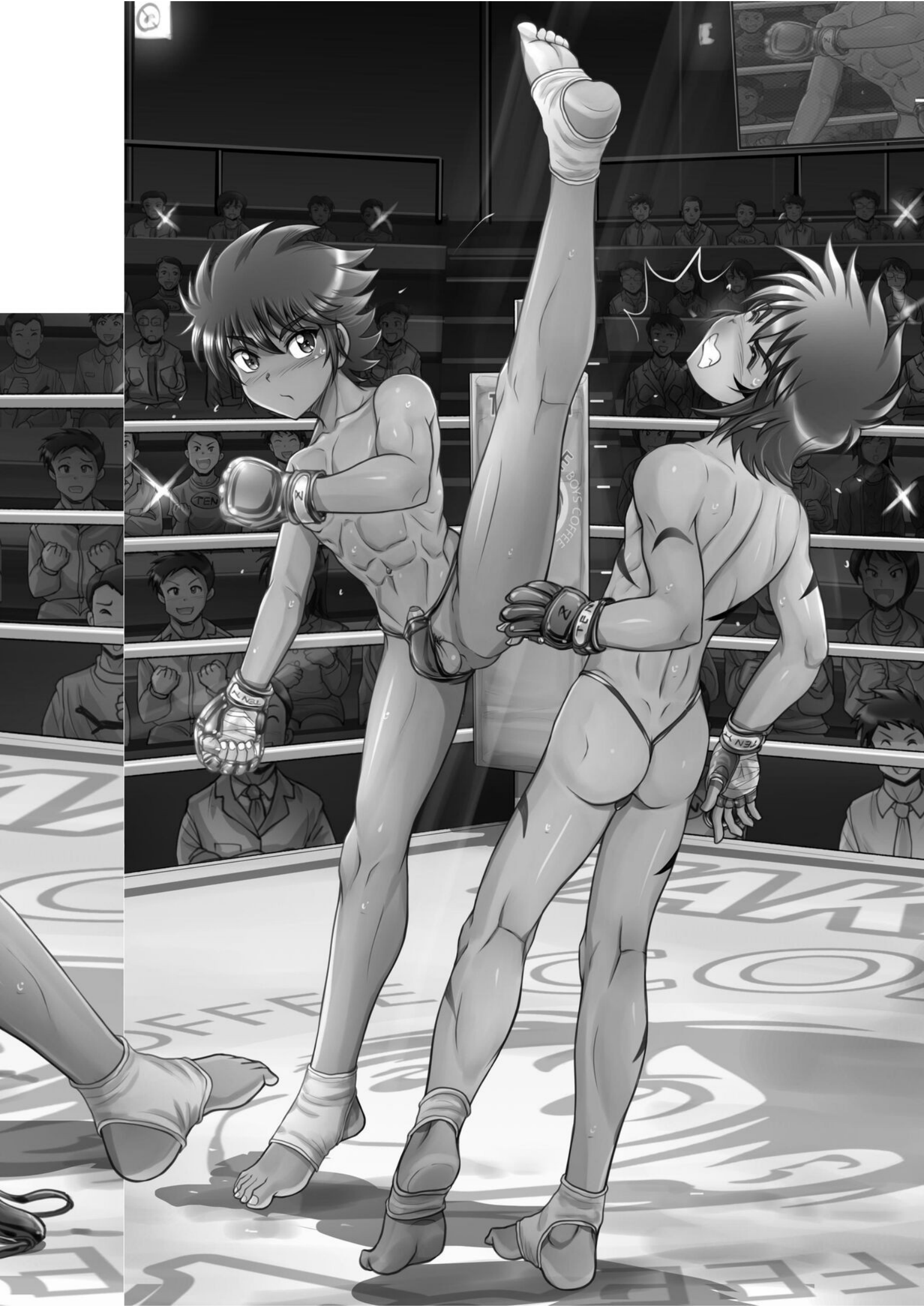
レフェリーのアナウンスに押されるように弥彦と健史郎はリングの中央に進み出る。

「おにヒコお！ぶちかませえ！」

わざわざ鬼ヒコ呼びしたサンタの声援に、弥彦は口を尖らせながらも呼吸を整え構えを作る。

しかし、感覚的にはほぼ丸出しの股間にどうしても違和感が





「ヒコっ！交代だ！」

健史郎のパフォーマンスが一段落したタイミングでサンタが叫ぶと、あっさり健史郎も輝に交代していく。

次はサンタと輝が観客を喜ばせる番なのだ。

「俺は真裸だって構わないぜ！」
サンタはそう不敵に笑うと、同じように余裕の笑みを浮かべて対峙する輝に仕掛けた！

サンタと輝、タッグマッチ二人目は攻撃型同士の戦いで、派手な攻撃の応酬がしばらく続く中で、二人とも緩いファイトショーツから金玉やペニスがこぼれ出てきて、カメラはその股間を大写しで追い続けた。

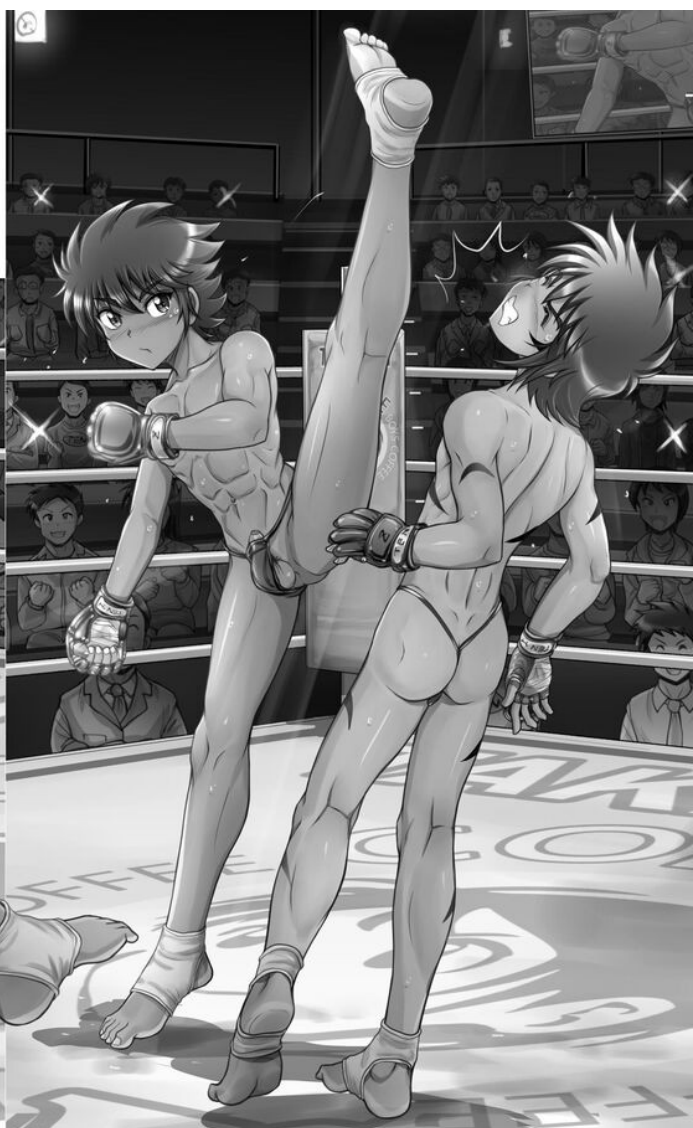
しかし純粋な実力ではサンタが明らかに上で、そうかわらずにサンタのハイキックが輝の急所にヒットしてダウンを奪う。

「おらっ！これでどうだ！」

そのまま輝のファイトショーツを奪って逆エビ固めを決めたサンタが輝の丸出しチンポをカメラに向けると同時に、試合終了のゴングが鳴り響いた。



「ヒッ！交代だ！」
健史郎のバフオーマンスが一段落したタイミングでサンタが叫ぶと、あっさり健史郎も輝に交代していく。
次はサンタと輝が観客を喜ばせる番なのだ。
「俺は真裸だって構わないぜ！」
サンタはそう不敵に笑うと、同じように余裕の笑みを浮かべて対峙する輝に仕掛けた！
サンタと輝、タッグマッチ二人目は攻撃型同士の戦いで、派手な攻撃の応酬がしばらく続く中で、二人とも緩いフットショットから金玉やペニスをごぼれ出てきて、カメラはその股間を大享しで追い続けた。
しかし純粋な実力ではサンタが明らかに上で、そうからずサンタのハイキックが輝の急所にヒットしてダウンを奪う。
「おらっ！これでどうだ！」
そのまま輝のフットショットを奪って逆エビ固めを決めたサンタが輝の丸出しチンポをカメラに向けてのと同時に、試合終了のゴングが鳴り響いた。



『さて皆さんお待ちかね！敗者のおしおきタイム！』

レフェリーの陽気なアナウンスに会場から歓声と拍手が沸き上がり、サンタと弥彦、そして敗者である輝と健史郎が再びリングに上がった。サンタと弥彦は全裸に足のサポーターのみ、輝と健史郎はレザールの首輪を装着されてペニスの根本からグローブを紐でぶら下げている。

さらに、輝と健史郎は後ろ手に縛られていて身動きができない。

そして、四人ともペニスは完全勃起してぶらぶらと揺れていた。

「結局、勝ってもチンチン見られるんじゃない！」

弥彦が呆れ気味にぼやくと、サンタは笑いながら肩を竦める。

「まったく！まあ、公開レイプするんだから、犯すほうもチンチン出すことになるよな、やっぱり」

『さあさあ、まずはフォトセッションだ！』

レフェリーに促されて四人は裸体をあらためて観客に向けて晒す。

試合では羞恥心で後れを取った弥彦も、すでに吹っ切れたらしく、観客の求めに応じて堂々と勃起ペニスを突き出している。

リングの四方で各五分の間、観客のリクエストに可能な限り応じたポーズをとって撮影してもらうというファンサービスだ。

もちろん、敗者は敗者らしく無様で滑稽なポーズを強制される。

輝は観客の求めに応じてガニ股でグローブをぶら下げたペニスと金玉をぶるんぶるんと振りまわし、健史郎はリングに寝かされて金玉を弥彦の足の裏で踏みつぶされていた。

『それでは、そろそろメインイベント開始しよう！』

頃合いを見計らってレフェリーが告げると、四人はリングの中央に集まってタッグマッチの対戦相手と同じ組み合わせでペアになった。

「じゃあ、まずはオレ達だね！」

弥彦が健史郎の尻をパンと軽く叩く。

通常と違い二組のセックスが行われるため、事前にタイミング調整

が申し合わせられているのだ。

「じゃあやらせてもらうね」

弥彦がそう言うと、健史郎はコクッと頷いて尻を弥彦に差し出す。

差し出された尻肉を弥彦は両手で鷲掴みにして、その感触を味わう。

「うわっ！触り心地最高！サンタのお尻より小ぶりで吸い付くような肌と絶妙な弾力の筋肉が堪えないよ」

そう言いながら、弥彦は健史郎の尻を卑猥な手つきで揉みまくった。

「ああん！」

健史郎の口から甘い声が漏れ、その声が指向性マイクで拾われて会場で響き渡る。

弥彦の声も含め、リング上の声や卑猥な音はすべて放送されるのだ。

「では、御開帳〜」

弥彦は健史郎の尻肉を割り開き、アナルを剥き出しにする。

「うあ、すごい」

そのアナルを見て生唾を飲みこんだ弥彦は、すこし体をずらしてカメラに健史郎のアナルを撮影させる。

会場の大スクリーンに映し出された健史郎のアナルは、ピンク色の綺麗な小さな蕾のようで、しかし、艶めかしく呼吸に合わせてクパクパと蠢き開いていた。

観客からも呻くような歓声が沸き上がり、健史郎は首まで真っ赤になつて下を向いてしまう。

「もう我慢できない！いただきます！」

そう叫ぶと、弥彦は完全勃起した自分のペニスをいきなり健史郎のアナルに根元まで一気に挿入した！

「あああああん！太いいイッ」

健史郎は一際大きな嬌声を上げて悶え、ほぼ同時に、順番待ちの間にサンタの指でアナルを弄られていた輝も卑猥な嬌声を上げ始めて、リングの上は卑猥な声の合唱状態になった。



「相変わらずいい声で鳴くな！
淫乱なオスガキ共！」
突然、会場に響き渡るイケボ。

誰の声か気づいた観客の歓声
と共に疾風のごとくリングに上
がった絶対王者の「レイプタイガ
ー」長谷部武虎は、弟分の輝と健
史郎を公開レイプしているサン
タと弥彦を文字通り瞬殺で殴り
飛ばすと、放心状態の輝と健史郎
の尻を叩いて気合を入れてから
リングの外に放り出す。





「弟分達が世話になったな、サンタに弥彦、裏格闘技界へようこそ！歓迎するぜ。せっかくのデビュー戦だ。今日は俺が二人まとめて相手をしてやるよ」

リングの中央に悠然と立ったレイプタイガーが余裕の笑みを浮かべながらマイクで会場全体に向けてそう宣言すると、会場全体が大きな歓声で溢れる。

レイプタイガーのマイクパフォーマンスの間に、サンタと弥彦にレフェリーから新しいファイトショーツが手渡され、そのまま二対一で試合に突入するように耳打ちされる。

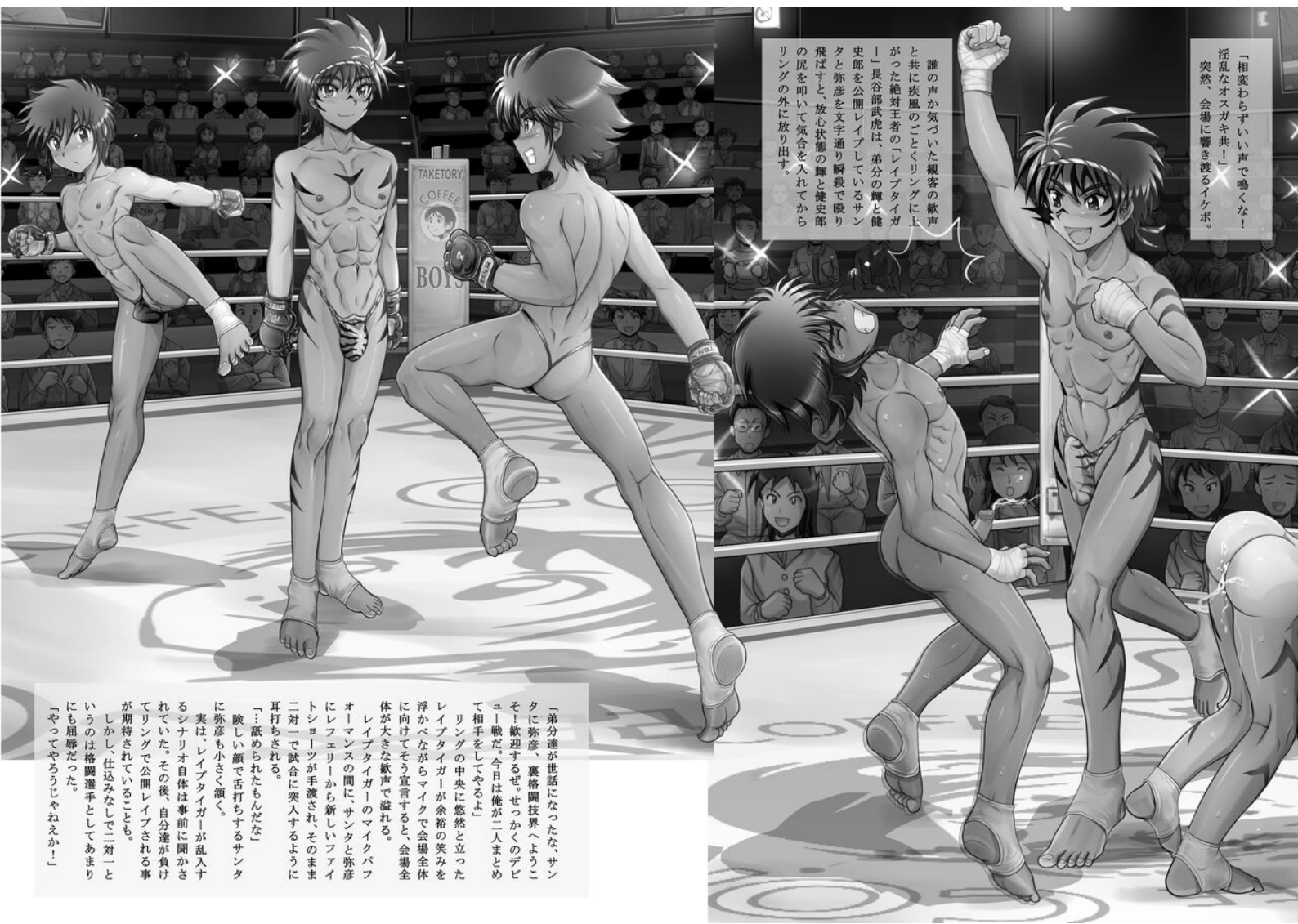
「…舐められたもんだな」

険しい顔で舌打ちするサンタに弥彦も小さく頷く。

実は、レイプタイガーが乱入するシナリオ自体は事前に聞かされていた。その後、自分達が負けてリングで公開レイプされる事が期待されていることも。

しかし、仕込みなしで二対一というのは格闘選手としてあまりにも屈辱だった。

「やってやろうじゃねえか！」



誰の声か気づいた観客の歓声と共に疾風のごとくリングに上がった絶対王者の「レイプタイガー」長谷部武虎は、弟分の輝と健史郎を公開レイプしているサンタと弥彦を文字通り瞬殺で殴り飛ばすと、放心状態の輝と健史郎の尻を叩いて気合を入れてからリングの外に放り出す。

「相変わらずいい声で鳴くな！淫乱なオスガキ共！」突然、会場に響き渡るイケボ。

「弟分達が世話になったな、サンタに弥彦、裏格闘技界へようこそ！歓迎するぜ、せっかくのデビュー戦だ。今日は俺が二人まとめて相手をしてやるよ」

リングの中央に悠然と立ったレイプタイガーが余裕の笑みを浮かべながらマイクで会場全体に向けてそう宣言すると、会場全体が大きな歓声で溢れる。

レイプタイガーのマイクパフォーマンスの間に、サンタと弥彦にレフェリーから新しいフアイトショーツが手渡され、そのまま二対一で試合に突入するように耳打ちされる。

「…怒められたもんだな」

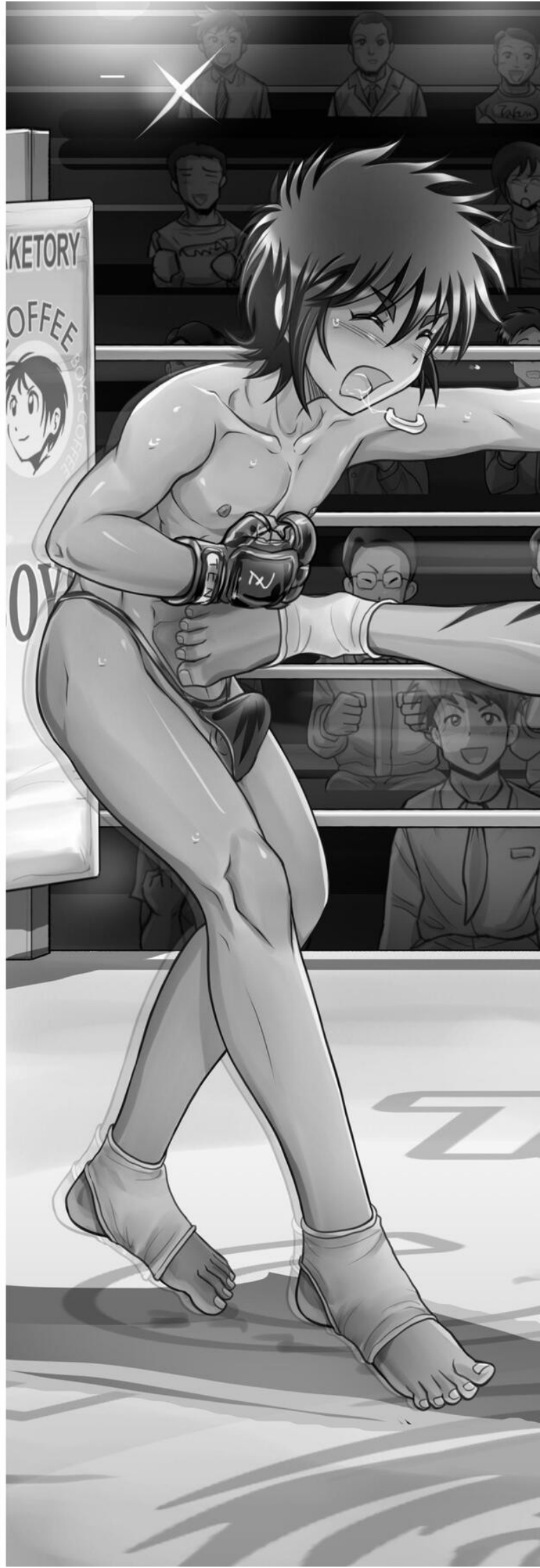
険しい顔で舌打ちするサンタに弥彦も小さく頷く。

実は、レイプタイガーが乱入するシナリオ自体は事前に聞かされていた。その後、自分達が負けてリングで公開レイプされる事が期待されていること。

しかし、仕込みなしで二対一というのは格闘選手としてあまりにも屈辱だった。

「やってやろうじゃねえか！」





サンタと弥彦は、ゴングが鳴った瞬間にノータイムで呼吸を合わせてレイプタイガーの前後から襲い掛かった！

しかし、絶対王者レイプタイガーはチンポがデカいだけじゃなく、圧倒的に強かった。

タイミング的にはほぼ完璧な奇襲といっても良い前後からの挟撃にもまったく動じることなく、最小限の動きで冷静にかわし、間髪入れずにサンタには左ひじで顎を、弥彦には右足で腹を痛撃する。

「うあつ！」

「がああつ！」

その後は、あえてレイプタイガーからは仕掛けることなく、サンタと弥彦が手を変え品を変えて繰り出す攻撃をひたすら軽やかにかわし続けた。

しかもただ避けるだけではなく、自分の鍛え抜かれた肉体とフアイトショーツ越しにもクッキリと形が分かる大きくて形の良い金玉、そしてあえて半勃起させたペニスや、紐パンの紐越しに丸見えになる綺麗なアナル

までもを観客に見せつけるように卑猥な動作でリングの中を縦横無尽に動き回っていた。

さらに、サンタと弥彦も、同様にその肉体を、金玉とペニス、そしてアナルを観客に見せるように仕向けられているのだ。

「ちくしょおっ！」

攻防が五分程度続いたところで、弥彦が小さく吐き捨てるように叫ぶと、サンタも無言で拳を強く握りしめた。

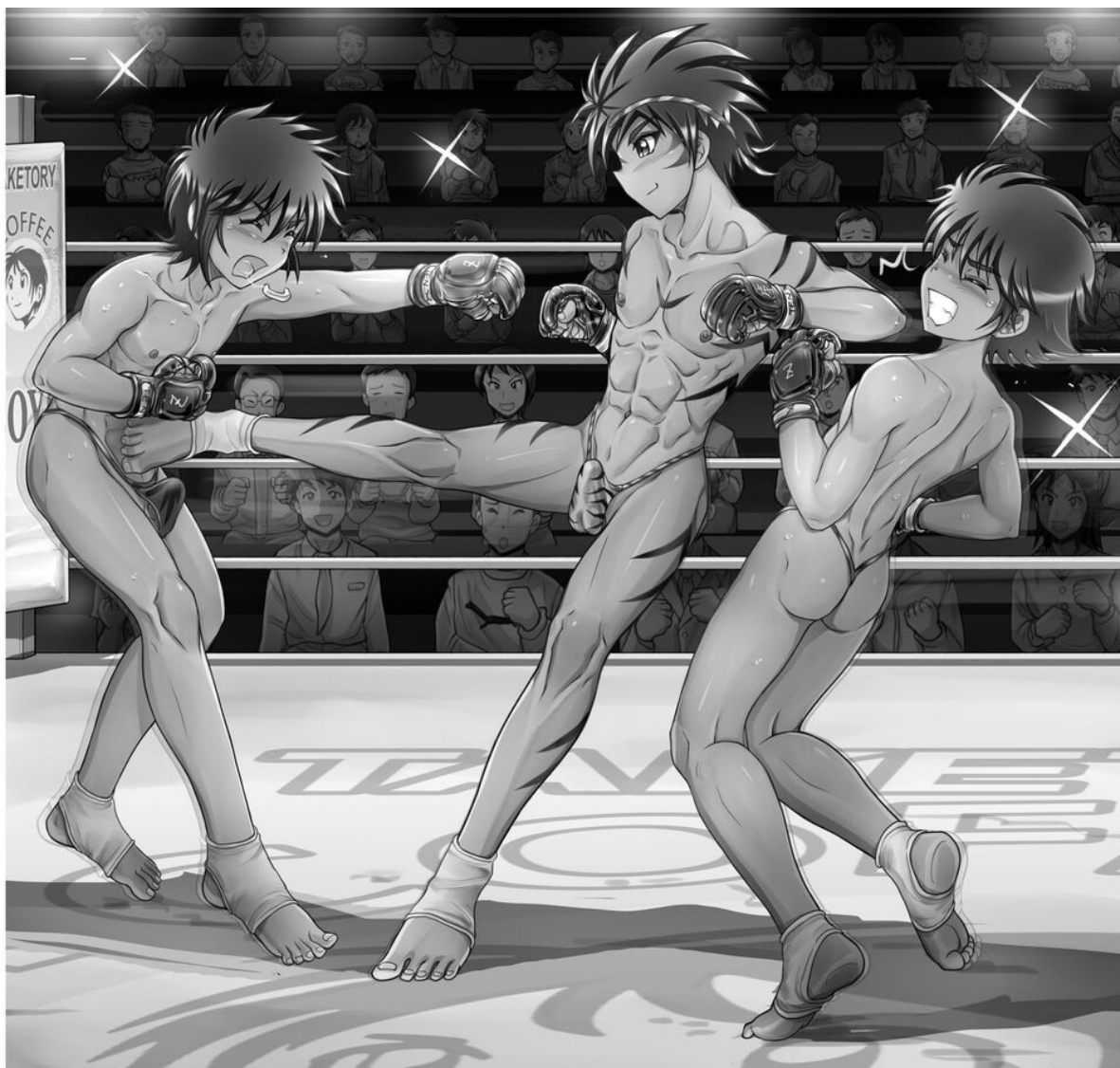
完全に弄ばれていながら、二人にはもう打つ手が無くなった。

「もう終わりか？」

サンタと弥彦の動きが止まったのを見て、レイプタイガーは余裕の笑みを浮かべた。

「最初に言っておくぜ、お前たちは十分強い。才能もある。将来は覇権争いすらできるだろう。だが、今は俺の敵じゃない。ただのセックス奴隷、肉便器だ。わかったら自分でフアイトショーツを脱いで差し出せ」

フアイトショーツを自ら脱いで差し出す行為は、完全敗北と絶対服従を誓う一番の屈辱だ。



サンタと弥彦は、ゴングが鳴った瞬間にノータイムで呼吸を合わせてレイブタイガーの前後から襲い掛かった！
しかし、絶対王者レイブタイガーはチンポがデカいだけじゃなく、圧倒的に強かった。
タイミング的にはほぼ完璧な奇襲といっても良い前後からの挟撃にもまったく動じることなく、最小限の動きで冷静にかわし、間髪入れずにサンタには左ひで顎を、弥彦には右足で腹を痛撃する。

「うあつっ！」
「がああつ！」
その後は、あえてレイブタイガーからは仕掛けることなく、サンタと弥彦が手を変え品を変えて繰り出す攻撃をひたすら軽やかにかわし続けた。
しかもただ避けるだけではなく、自分の鍛え抜かれた肉体とフアイトショーツ越しにもクツキリと形が分かる大きくて形の良い金玉、そしてあえて半勃起させたベニスや、紐パンの紐越しに丸見えになる綺麗なアナル

までもを観客に見せつけるように卑猥な動作でリングの中を縦横無尽に動き回っていた。
さらに、サンタと弥彦も、同様にその肉体を、金玉とベニス、そしてアナルを観客に見せるように仕向けられているのだ。
「ちくしょおっ！」
攻防が五分程度続いたところで、弥彦が小さく吐き捨てるように叫ぶと、サンタも無言で拳を強く握りしめた。
完全に弄ばれていながら、二人にはもう打つ手が無くなった。

「もう終わりか？」
サンタと弥彦の動きが止まったのを見て、レイブタイガーは余裕の笑みを浮かべた。
「最初に言っておくぜ、お前たちは十分強い。才能もある。将来は覇権争いすらできるだろう。だが、今は俺の敵じゃない。ただのセックス奴隷、肉便器だ。わかったら自分でフアイトショーツを脱いで差し出せ」
フアイトショーツを自ら脱いで差し出す行為は、完全敗北と絶対服従を誓う一番の屈辱だ。



「断る！殺せ！」

サンタは即答する。

「だよね！」

レイプタイガーはそう言って笑うと一気にサンタとの間合いを詰めて間髪入れずに左の拳を

サンタの腹に叩き込む！

「があっ！」

サンタは抵抗を試みる間もなく一撃でリングに沈められ、ファイトショーツを奪われた。

「サンタあ！」

それを見た弥彦が背後からレイプタイガーに挑むが、くると振り向いたレイプタイガーに右の拳を腹に突き入れられて悶絶し、同じくリングに沈んだ。

「くっそおっ…」

『勝者、レイプタイガー！』

次の瞬間、レフェリーのコールが入り、試合終了のゴングが会場に鳴り響いた。



レイプタイガーはサンタと弥彦を全裸に剥くと、リングのロープに絡めて観客に晒し、高らかに勝利の雄叫びを上げた。
そしてマイク無しの大声で、観客に宣言する。

「極上のエロいオスガキ二匹、今日から参戦だ！この鍛え抜いた肉体のすべてを、おまえらの娯楽に捧げるぜ！新鮮な若い肉をしやぶりつくしてくれよな！」

『さて皆さんお待ちかね！敗者のおしおきタイム！』

レフェリーの陽気なアナウンスに会場から拍手が沸き上がる。

『しくかくも！今回は勝者から一転して敗者に転落という、超々レアなケースだ！まさに天国から地獄！さらにタッグマッチで敗者も二人いるからもう大忙しさ！』

レフェリーがノリノリでマイクパフォーマンスをしている間にリングの中央では弥彦の処刑準備が着々と進められていく。

レザーの首輪を着けられた全裸の弥彦が両足を足輪とスチールバーで開脚したまま固定され、さらに両腕を背中であとめて拘束されて腰のベルトに繋がれ、それを天井からワイヤーで吊られたうえで、首輪を逆にワイヤーでリングに繋がれるという過酷な体勢を強いられた。

『おっと！準備が整ったようだ！ここからは我々がレイプタイガーにマイクを託すぜ！』

マイクを受け取ったレイプタイガーは既に全裸で、完全勃起したズル剥けペニスとデカイ金玉を見せつけるように立っている。

そして、マイクに向かって衝撃発言を行った。

「最初に言っとくぜ！こいつの尻には、俺のペニスは入れてやらねえ！当然、射精もしてやらねえ！」

そう宣言したレイプタイガーは、リングを一周して自分の完全勃起したズル剥けの巨根を、どよめく観客に見せつけた。

「今日、こいつの尻に入るのは極太電撃デイルドと浣腸液三リットル、さらに自分自身のザーメンだ！そうだ！久しぶりに『地獄のチンチン絞り』をやるぜえっ！」

レイプタイガーのマイクパフォーマンスに会場はドツと沸く。

『ここでご存じないお客さんに解説しよう！』

なぜかもう一本マイクがあつて、レフェリーが割って入って『地獄のチンチン絞り』の説明を入れる。レイプタイガーも黙ってやらせる。

ファンサービスが完璧だ。

『地獄のチンチン絞りとは、リング中央に拘束して晒しながら、極太デイルド等を使って敗者のミルクタンクが空っぽになり、激痛で気絶するまで強制的に射精させて続けて、その後、自分が出した精液と浣腸液を混ぜて限界量まで浣腸した後、スタンガン付デイルドでアナルに栓をして、限界電圧で腹の中に電撃を加えて、電撃で緩んだアナルから浣腸液を噴出させる、という残酷なお仕置きだ！』

「解説おじさん、サンキュー！」

『だれが解説おじさんだ！』

再びドツと沸く観客と処刑内容のギャップに弥彦は蒼白になるが、肩を落として観念する。

「もうダメええ！痛い痛い痛い！許してええ！」

泣き叫ぶ弥彦のペニスからは水のような薄い粘液らしきものが、ちよろちよろと零れ出ているだけだが、牛の乳のように弥彦のペニスを絞っている輝は、さらにデイルドの出力を上げて責め続ける。

泣き叫ぶ弥彦の目の前には、全裸で後ろ手に縛られたサンタが転がされていて、ペニスを完全勃起させてピクピクと揺らしていた。

『ちくしょう！なんで俺はっ！』

サンタは、自分にとって大切な人間が酷い目に遭っているのに、その姿に極度の性的興奮を覚えていることを自覚してパニック状態になっていた。見たくないのに、もっと見たい。相反する感情に思考停止に陥ってしまった。

その後、弥彦が大量の浣腸液を注入されている時も、スタンガン付デイルドで腹の中に電撃を食らって絶叫した時も、サンタのペニスはドクンと脈打ち、最後に弥彦が大量の浣腸液をアナルから噴出しながら泣き崩れた時には、同時に射精してしまっていた。

『そうか、俺は…』

観念したように、サンタは目を瞑った。



「さて、相棒が酷い目に遭ってるのを見て射精しちゃう悪い子にはどういってお仕置が必要かな？」

レイプタイガーはそう言いながらパンつとサンタの尻を叩く。

サンタは体を縄で亀甲縛りモドキに縛られ、両腕は頭上にまとめ縛られた状態のまま、M字開脚でリングの中央に吊り下げられていて、尻を叩かれた事により、ゆらゆらと揺れていた。

さらに股間では完全勃起したペニスがズル剥け状態にされてぶらぶらと揺れ、尿道に残った粘液をまき散らしている。

「まったくだらないチンポだな！」

今度はレイプタイガーの蹴りがサンタのチンポに炸裂する。

「ぎゃああああっ！」

サンタは大きく揺れながら悶絶する。

「よし決めた！お前の金玉も空っぽにしよう！」

揺れ動くサンタを背後から捕まえたレイプタイガーは、問答無用で一切の慣らしもなく、サンタのアナルに完全勃起した巨根を一気に根本まで突き挿れてしまう。

「うげえええっ！」

奇声を上げたサンタのペニスから、押し出されるように精液が噴き出してリングにまき散らされる。

「よし、いいぞ！この調子でお客に見てもらおうぜ！」

レイプタイガーはサンタのアナルを犯したまま、サンタを抱えてロープ際まで移動すると、客席に向けてサンタの股間を晒してから再び大きな動作でサンタのアナルを突き上げる！

「うごおっ！」

そしてサンタのペニスから再び精液が噴き出す。

これをリングの四方で毎行い、四回目にはサンタのペニスからは精液のかわりに小便が出てしまった。

「あゝあ、やつちまったな！だがまだだ。お前の金玉ならもう一発でデ

カいのがいけるはずだ。健史郎！」

「うん、まかせて！」

リングでロープ繰りをサポートしていた健史郎が楽し気に駆け寄り、観客に見えるように低い姿勢でサンタの金玉に左手を伸ばす。

そして右手でスマホのカメラをサンタの顔に向けると、左手で掴んだサンタの金玉二つをコリコリと力強くすり潰した！

「ぎゃあああああっ！」

今までで最も悲痛な悲鳴をあげたサンタのペニスから、薄いながらも大量の精液が勢いよく噴出して弧を描く。

「ははははっ！いいぞ良く出した！」

レイプタイガーはご機嫌な様子で笑うと、サンタのアナルからペニスを引き抜いた。

サンタのぽっかり開いたアナルから大量の精液が零れ落ちていく。

「サンタ、これで最後だ。おまえ、相棒と『親友以上恋人未満』とかふざけた事言ってるそうだな？今日は自分の性癖も含めて観念したんじゃないのか？ソレをお客さんに全部、白状しろ」

レイプタイガーはわざわざマイクを使ってそう迫り、サンタに逃げ場を与えずにマイクを突きつけた。

「俺はっ！……ヒコが、弥彦が好きだ！一生一緒に居たい！でも、弥彦が痴態を晒して泣き叫ぶのが大好きなサディストだ！ごめん！」

サンタの告白に間髪入れずに、弥彦も叫んだ。

「オレもっ！サンタが好きだよ！一生一緒だ！そしてオレもサンタの悲鳴が大好きだった！オレ今射精しちゃったんだ。同じだよオレたち、お互いに大好きでお互いに拷問したいんだ！笑っちゃうね！」

泣き笑いしながらの弥彦の告白に、観客からはなぜか暖かい拍手と声援が会場を覆いつくすほど沸いた。

「今日は最高の夜だな！裏格闘技界に相応しい、最低で最高の変態カッパルの誕生だ！これから面白くなるぞ！」



『皆様、本日は総合性少年格闘技グランプリシリーズ・箭技研工業カップ春開催第二弾にご来場いただきましてありがとうございます。今大会の参加選手にパドック一人目、いえ一組目は、三田颯太選手十三歳と草間弥彦選手十三歳です。今大会から拷問内容無制限での長期参戦契約となります。なお、本日は両選手がメインイベントである新企画「丸出しマッチZ（ゼット）」の主役となります』

今日のパドックのプレートは緩い角度で、二人一緒に乗ったサンタと弥彦は特に固定されることは無く横たわり、全裸でアナルにデイルドを挿入した姿で抱き合って、さらに完全勃起してズル剥けにした粘液まみれの亀頭でキスをしていた。

「サンタ、お客さん喜んでくれてるね」

「ああ、すげー撮影されまくってる」

「ねえサンタ、射精して見せたほうがいかな？」

「良いアイデアだけど、お客さんまで飛びそう」

「ああ、うん、やめとこう」

「あ、サンタ、お客さん目線欲しいって」

「おう、ピースもしちゃえ」

「…なあヒコ、後悔してないか？」

「何を？」

「俺たち、今日、参加選手「全員」に輪姦されるんだぜ？」

「オレは大丈夫。大勢に犯されるオレを見て、サンタが喜んでくれるならオレも嬉しいから」

「そうだな、俺も、プチ犯される俺を見てヒコが快感なら嬉しいぜ」

サンタと弥彦はニヤリと笑いあって、キスをした。

『なお、本日のメインイベントは、全試合終了後に行われます。場所は

第一体育館中央リング特設ベッド、イベント内容は、三田颯太、草間弥彦の両名を、本日参戦選手全員で輪姦する公開輪姦ショーで…あつ』
突然アナウンスが途切れ、レイプタイガーこと長谷部武虎の声が場内放送に『乱入』する！

『言い出しっぺはオレだ！主役が丸出しマッチの後に「全裸」で「全員」に「絶頂」させられるまで終わらないデスマッチ、略してえ〜』

レイプタイガーは目いっぱいタメてから絶叫した。

『まあゝる出しマッチZ（ゼット）だあゝ！』

おしまい



三田颯太

草間弥彦



みなさんお久しぶり！
お元気ですか？
挿絵担当の筍屋です
一年たってもコロナに
振り回される日々ですが
感染対策しつつ可能な
ものは元に戻すべく
なんとか新刊作りました

以前出した丸出しマッチ
という格闘物の続編
…でもないんですが
同じ世界線のスピンオフ
みたいな感じのお話です
描くのが難しいので
苦手の格闘パートも
イパーイ描かされて
ヒーヒー言いましたが
少しでもお気に入り
頂けたら幸甚であります
ちなみにZ(ゼット)は
某アニメの在来線では
無く「全裸」のZだそう
ですw(TKさん談)

やっとワクチン接種も
はじまり少し光明も
みえたかなって感じも
しています
コロナに気をつけて
またどこかでお会い
できたらなと思います
それまで皆様お元気で！

2021年4月29日
筍屋

格闘少年丸出しマッチZ

2021年4月29日 初版発行
発行/筍御飯VF
著者/筍屋&た〜んけー
印刷所/株式会社 プロス
連絡先/turn_k_vf@yahoo.co.jp

はじめまして&おひさしぶりです。
へたれ文字書きのた〜んけーです
まさか2年連続でこんなGWになる
とは。

いま自分たちに出来る範囲で、
とにかく踏ん張る。
そのために、いつも通りの一冊。
内容は筋肉少年を闘ってるだけ
(いつも通り)
どこか一場面でも皆さんの
視線に触れられたら幸いです。

2021年4月 た〜んけー
turn_k_vf@yahoo.co.jp

MARUDASHI
MATCH **Z**



格闘少年
丸出しマッチ **Z**